ともに挑む。ともに実る。
MIZUHO みずほ銀行

2025 年 10 月 10 日

The Emerging Markets Weekly

ユーロ続落を受けて、東欧通貨を中心に軟調

新興国市場:先週末 3 日のアジア時間は米政府機関の閉鎖に加え、中国が国慶節で休場のなか、総じて方向感の欠く動きとなった。PHP が小幅に上昇する一方、INR は値を下げた。欧米時間、発表が予定されていた米 9 月雇用統計は米政府機関の閉鎖を受けて見送られた。米 9 月 ISM 非製造業景気指数は市場予想を下振れ、新興国通貨の支えとなった。ZAR が堅調も TRY は下押しされた。週初 6 日アジア時間、多くのアジア市場が休場のため商い薄のなか軟調。PHP の下落が目立った。欧米時間、フランスのルコルニュ仏首相の辞任表明を受けてユーロに連れて東欧通貨は概ね値を下げた。片や、中南米通貨は上昇し、BRL や MXN が値を伸ばした。7 日アジア時間は引き続き中国を始めとして多くのアジア市場が休場のため動意の薄い展開。PHP が上昇する一方、TWD が売られた。欧米時間、米金利上昇が新興国通貨の重しに。BRL が下落したが、RUB は前日比+1.4%値を伸ばした。8 日アジア時間はドルの堅調が続くなか下押しされた。SGD や IDR が軟調。欧米時間、米金利が一時低下するも反発し、大半が値を下げた。RUB や ZAR、MXN は堅調。商品市況の上昇が資源国通貨の支えとなった。9 日のアジア時間、ドルの上昇が和らぎ大半が小幅に上昇。IDR が値を伸ばした。欧米時間、ユーロの続落に伴い東欧通貨を中心に軟調な動き。その間にドルが対ユーロで上昇したことで、中南米通貨も上値重く推移した。BRL は前日比▲0.6%下落した。

アジア:6 日発表のベトナム 7～9 月期実質 GDP は前年比+8.23%と 4～6 月期から加速し、市場予想（同+7.15%）を上回った。輸出や個人消費の伸びが全体を押し上げた。同日公表のベトナム 9 月消費者物価指数（CPI）は前年比+3.38%と前月から上昇するも市場予想は下振れた。同日発表のタイ 9 月 CPI は前年比▲0.72%と前月からマイナス幅が縮小するも、市場予想よりマイナス幅は大きかった。タイ中央銀行（BOT）は 8 日、政策金利を 1.50%に据え置くことを決定した。利下げを見る向きが大勢だったため据え置きはサプライズとなった。BOT のウィタイ総裁は、見通しが悪化すれば利下げをする方針を示した。フィリピン中央銀行（BSP）は 9 日、政策金利を 5.00%から 4.75%に▲25bp 引き下げた。据え置きをみる向きが多かったため、サプライズ利下げとなった。

中東欧・アフリカ:3 日発表のトルコ 9 月消費者物価指数（CPI）は前年比+33.29%と前月から加速し、市場予想も上振れた。

ラテンアメリカ:ブラジルのルラ大統領は 6 日、トランプ米大統領と電話会談を行った。ルラ大統領は米国がブラジルに科した追加関税などの見直しを要請したようだ。両国は対面での首脳会談を視野に協議を続けることで一致した。9 日発表のメキシコ 9 月 CPI は前年比+3.76%と市場予想を小幅に下回った。同日公表された、ブラジルの 9 月消費者物価指数（IPCA）は、前年比+5.17%とこちらも市場予想を僅かに下回った。

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀　尭大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト
長谷川　久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島　由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島　將行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観（新興国）

韓国製造業 PMI が 8 か月ぶりに中立水準超え

国際為替部
マーケット・エコノミスト
長谷川　久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

S&P Global 社が集計するグローバル購買担当者指数（PMI）によれば、9 月製造業 PMI は 50.8 と 8 月（50.9）からは低下も、前月に続いて中立水準（＝50）を上回った。先進国（50.9→50.3）は生産や新規受注を中心に悪化も、前月に続いて中立水準を超えた。片や、新興国（50.9→51.2）は新規受注や生産を中心に上昇、4 か月連続で中立水準を超えた（図表 1、2）。一方、グローバル非製造業 PMI（53.3→52.8）と低下。内訳を確認すると、先進国（53.3→52.9）、新興国（53.9→53.0）と総じて軟調だ。

これらを合わせたコンポジット PMI は 52.4 と前月（52.9）から低下も、32 か月連続で中立水準超えを維持。世界の GDP 成長率は 1～3 月期に+2.73％（前期比年率）と前四半期から伸びが鈍化した（図表 3）。PMI の推移を確認する限り、4～6 月期の落ち込みの後、7～9 月期には持ち直しが期待される。

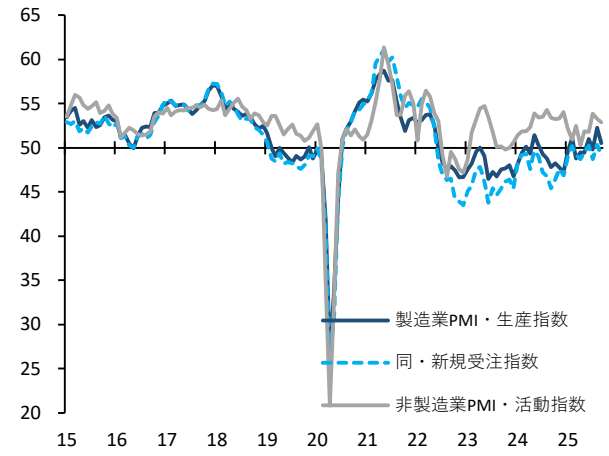
製造業 PMI に関し、グローバルな金融政策動向を占う上で重要な価格関連の指数を確認する。仕入れ価格・出荷価格は、9 月に揃って低下した（図表 4）。8 月にはまとまった幅での上昇が確認されていたが、9 月にはその一部を巻き戻した格好である。なお、先進国と新興国で分けて確認すると、新興国では価格指数の反発基調が目立つ。かねて述べているように、今次利下げサイクルで先行した結果だろう。自然と利下げ余地にも差が出ることが想定される。相対的な利下げ余地の狭さは、新興国通貨にとっては支えになりそうだ。

製造業 PMI の構成指数別では、入荷遅延以外の 4 項目が PMI の低下に寄与した。生産は先進国の悪化が響いたが、前月に続く中立水準超えを維持（図表 5）。加えて、新規受注も先進国主導で悪化も、前月に続いて中立水準を上回った（図表 6）。また、雇用も先進国主導で低下し、2 か月ぶりに中立水準を割り込んだ（図表 7）。加えて、購買品在庫は新興国主導で悪化も、前月に続いて中立水準を上回った（図表 8）。米中による関税賦課合戦一時休止の延長を受け、在庫復元の流れが進んでいるようだ。最後に、入荷遅延（逆インデックス）は先進国主導で低下し、16 か月連続で中立水準を割り込んでいる。新規（輸出）受注が軟調である点も踏まえて考えれば、引き続き米関税政策を受けたサプライチェーンの混乱が反映されているのだろう。

個別の新興国では、韓国製造業 PMI の改善に着目したい。9 月には 50.7 を記録し、8 か月ぶりに中立水準を回復した。水準としても、13 か月ぶりに高い。構成項目を確認すると、新規受注と生産の急上昇が目に付く。それぞれ、6 か月ぶり、7 か月ぶりの中立水準超えを記録した。新規輸出受注も同じような動きで急騰しており、外需の見通しが急回復したことがうかがえる。公表元のコメントに目を通すと、外需の回復に加え、新製品の発売開始とその大量生産が全体の指数改善に寄与したとのことだ。半面、回答企業からは為替変動による原材料高を指摘する声も聞かれており、現に仕入れ価格指数は高止まりしている。特殊要因もあり 9 月の景況感は改善したが、先行きは楽観視できない。

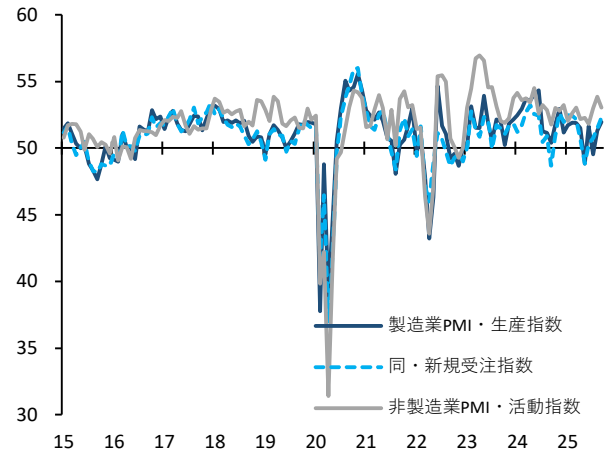
（注）各国・地域別の PMI のグラフについては、10 月 6 日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

図表 1:先進国



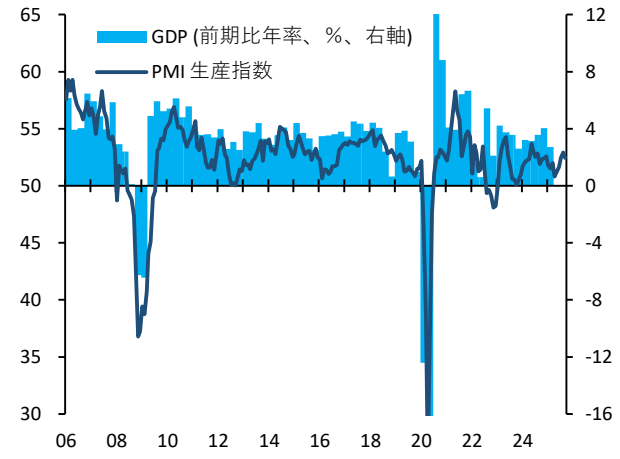
出所:S&P Global、みずほ銀行

図表 2:新興国



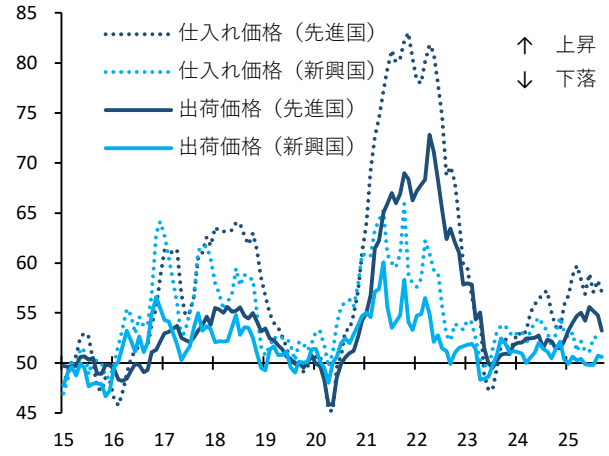
出所:S&P Global、みずほ銀行

図表 3:グローバルのコンポジット PMI と GDP 成長率



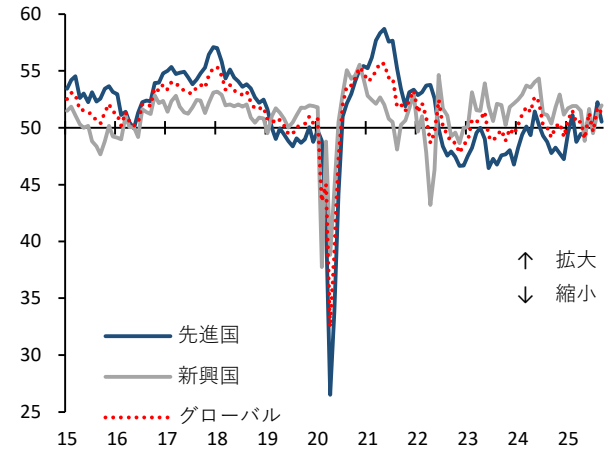
出所:S&P Global、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4:製造業 PMI・価格指数



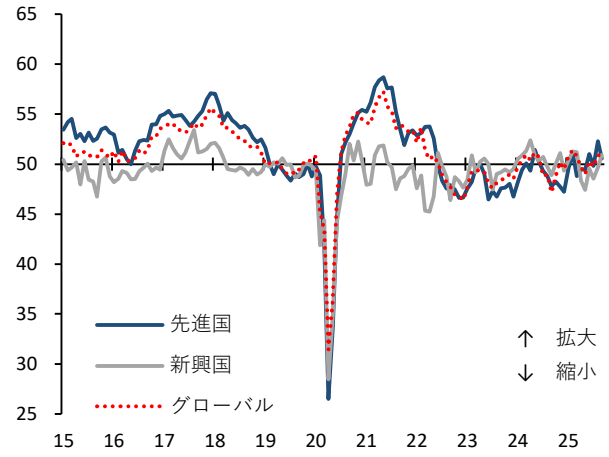
出所:S&P Global、みずほ銀行

図表 5:製造業 PMI・生産指数



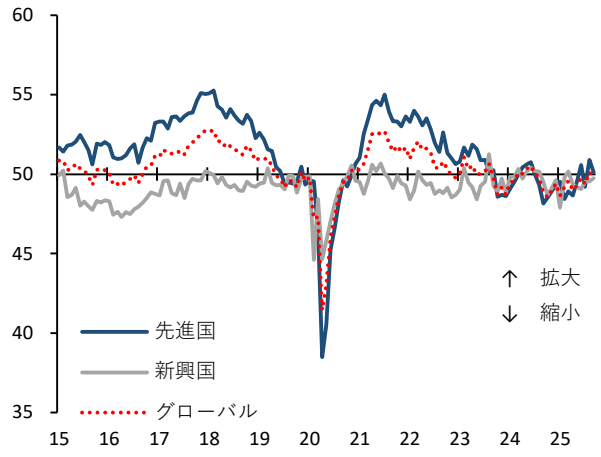
出所:S&P Global、みずほ銀行

図表 6:製造業 PMI・新規受注指数



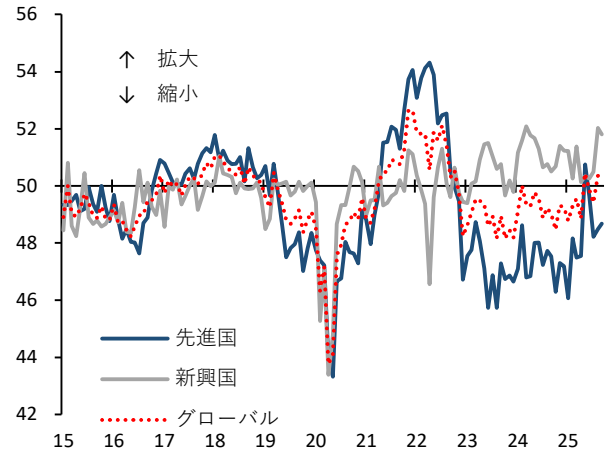
出所:S&P Global、みずほ銀行

図表 7:製造業 PMI・雇用指数



出所:S&P Global、みずほ銀行

図表 8:製造業 PMI・購買品在庫指数



出所:S&P Global、みずほ銀行

市場概観（タイ）

10 月金融政策委員会～予想外の現状維持も、追加利下げ期待は強い

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀　尭大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

タイ中央銀行（BOT）は 8 日に金融政策委員会を開催し、政策金利を従来の 1.50%に据え置いた（図表 1）。現状維持は 7 人のメンバーうち 5 人が賛成し、2 人は追加利下げを主張した。BOT は今年に入り累計で▲100bp の利下げを実施しており、ブルームバーグの事前予想では利下げの予想が有力であった。なお、今回はウィタイ BOT 新総裁が就任して初めての会合であった。

今回会合に際して BOT は経済・物価見通しを更新（図表 2）。25 年の成長予想は従来の前年比+2.3%から同+2.2%へ引き下げられた。声明文では年後半にかけての景気減速に警戒感を強め、特に観光業と内需の停滞懸念を指摘している。前者については、既に外国人観光客受入見通しが下方修正されており、前年割れとなる見込みだ。25 年の状況を見ても、特に中国人観光客の受入が伸び悩んでおり、国慶節にかけての実績も注目される（図表 3）。後者については、民間部門の融資の伸びが弱まっている点に言及しながら、民間部門の債務負担軽減の必要性を強調しており、緩和的な金融政策の継続を示唆した（図表 4）。金融緩和継続に加えて、9 月に発足したアヌティン政権が 7 日、国民への現金支給を 10 月末から始めると発表しており、BOT はこれらの政策効果を確認していくこととなる。

物価動向について、直近 9 月消費者物価指数（CPI）は前年比▲0.7%、生鮮食品とエネルギーを除いたコア CPI は同+0.7%となった（図表 5）。総合ベースについては 6 か月連続の前年割れとなったが、好天候による食料品価格の下落や資源価格の軟化が引き続き CPI を押し下げている。また、食品とエネルギーを除いたコアベースについても、BOT が掲げるインフレ目標（+1.0～+3.0%）の下限に達していない。先行きの見通しを見ても、需要サイドからのインフレ押し上げが見込みにくい状況下、25 、26 年ともコアインフレは同+1.0%未満の推移を見込んでいる（図表 2）。

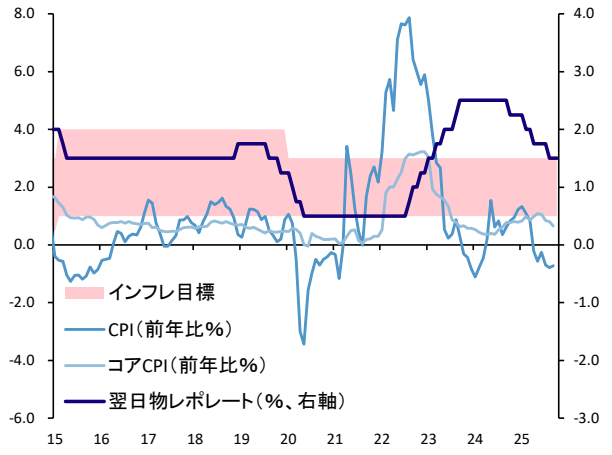
かかる中、BOT は緩和的な金融環境を維持しつつ、融資状況を注視しながら国内経済を下支えしていく姿勢を強調した。かかる文言は、セタプット・前総裁時代からも頻繁に使われていたフレーズであり、これだけでは総裁交代を受けて明確にハト派に傾斜したとは判断できない。セタプット前総裁は常々、タイ経済の抱える構造的な問題は利下げでは解決できないと主張してきたが、トランプ関税の影響が今後実体経済へ波及していくこと、先述の観光業や内需の停滞懸念など、下半期については、複数の景気減速リスクが存在するのも事実である。そのため、今回は先行きの利下げの糊代を残す観点から利下げを見送ったと推測されるが、タイ経済の状況を見極めながら年末年始にかけて複数回の利下げが実施されても不思議ではないと考えている。今回会合ではウィタイ新総裁のカラーが明確に出た訳ではないが、過去の経歴から政府との関係は深いとの見方もあり、今後の情報発信には引き続き注意したいところだ。

THB 相場に目を向けると、引き続き底堅い動きとなっている（図表 6）。引き続き方向感はドルに左右されている印象はありながらも THB と相関性が高いと言われる金価格の上昇にも引っ張られている格好だ。もっとも、米国の金融政策を見る限り年末年始にかけて大幅な利下げは見込みにくい中で、THB 上昇ペースは今後減速すると

予想する。

また、当局がどこまでの THB 上昇を許容するかにも注目が集まっている。先月には政府は足許の金価格上昇を受けて、金の現物取引に課税を検討し、THB 高をけん制する局面も見られた。BOT が今回公表したデータによると、中小輸出業者の約 8 割が輸出ヘッジを実施しておらず、THB 上昇が直接的に採算悪化に繋がる点を指摘した。これは中小企業への資金繰り改善を目指す BOT にとっても無視できない問題である。先行きの輸出がトランプ関税の影響で鈍化すると予想される点も含めて、BOT が追加利下げを通じて THB 安方向に誘導する見込みを強めている。その際、やはり気になるのはトランプ政権の反応であり、来年にかけて BOT は国内景気とトランプ政権の双方に配慮した金融政策を一層求められることになりそうだ。

図表 1:タイの政策金利とインフレ率



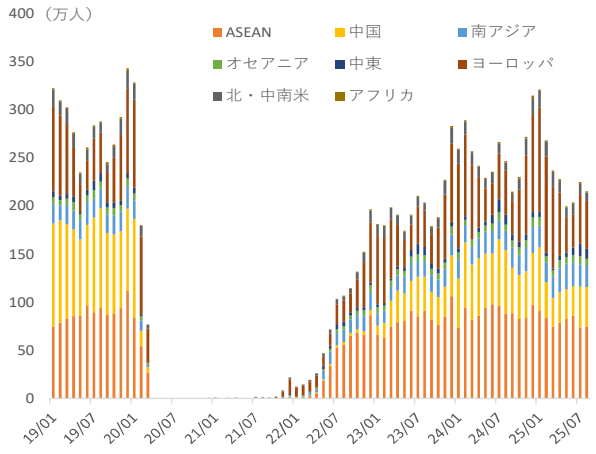
出所:BOT、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2:BOT 経済・物価見通し

	2024	2025	2026
実質GDP成長率（前年比%）	2.5	2.2	1.6
CPI	0.4	0	0.5
コアCPI	0.6	0.9	0.9
経常収支（億ドル）	116	160	130
外国人観光客数（万人）	3550	3300	3500
原油予想価格（ドル）	79.6	70.0	65.0

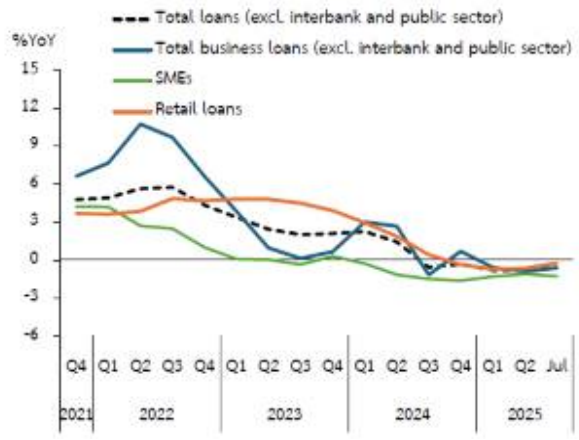
出所:BOT、みずほ銀行

図表 3:外国人観光客受入状況



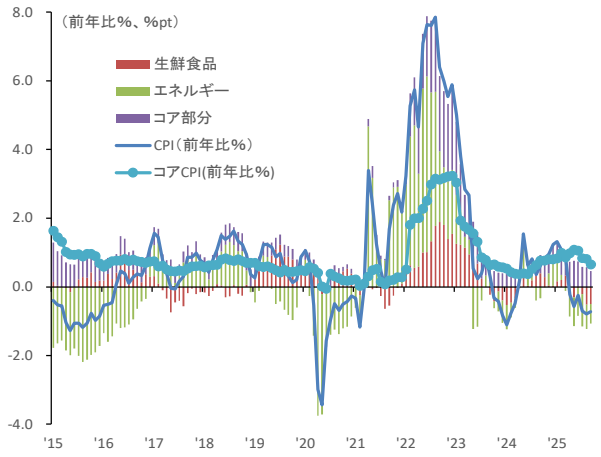
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4:民間部門への融資伸び率(前年比%)



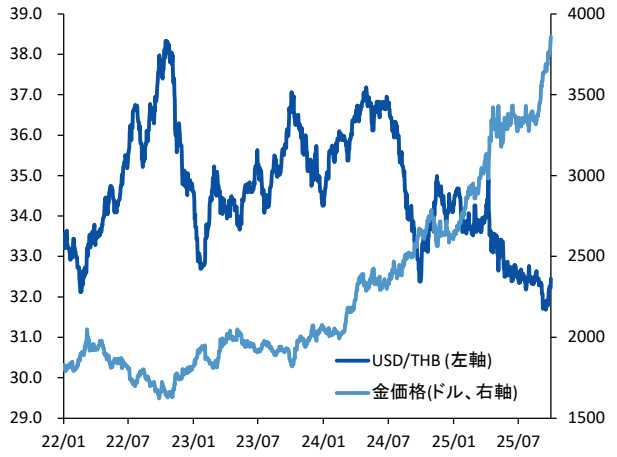
出所:BOT、みずほ銀行 *SME:中小企業

図表 5:消費者物価の推移(前年比%、%ポイント)



出所:CEIC、みずほ銀行

図表 6:THB と金価格の動向



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観（フィリピン）

10 月金融政策会合～成長見通しの弱まりを背景にサプライズ利下げ～

国際為替部
大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

フィリピン中央銀行（BSP）は、9 日に金融政策会合の結果を公表し、政策金利の翌日物リバースレポレートを従来の 5.00%から 4.75%へ▲25bp 引き下げた（図表 1）。利下げは 4 会合連続。また、上限金利の翌日物貸出ファシリティ（OLF）レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ（ODF）レートも同じ幅だけ引き下げられており、それぞれ 5.25%、4.25%とした。ブルームバーグの事前予想では、調査対象者の 26 人中 19 人が据え置きを見込んでいたため、サプライズとなった。

今回会合までの BSP の情報発信を振り返ると、前回 8 月会合では先行きの金融政策に関しては引き続きデータ次第とした。緩和姿勢は維持するものの、以前ほどではないとし、年内はあと 1 回利下げする可能性があるとした。また、緩和サイクルの終わりに近づいていることも示唆していたにも拘わらず、今回再び利下げに踏み切った。会合間で、明確にハト派スタンスが強まっている。

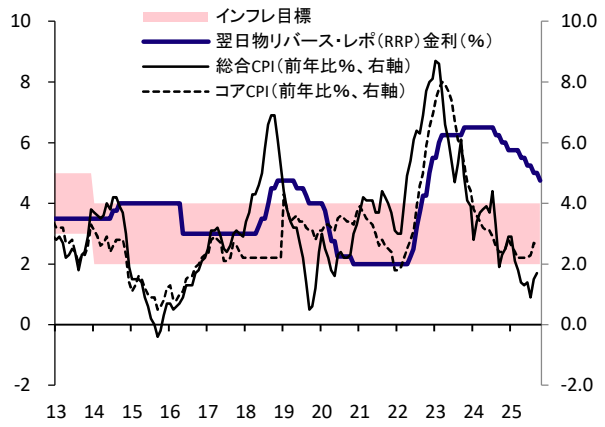
物価動向については、7 日公表の 9 月消費者物価指数（CPI）は前年比+1.7%と 8 月（同+1.5%）から加速し、2025 年 5 月以来の水準となった（図表 2）。食品とエネルギーを除くコア CPI は同+2.6%と 8 月から僅かに鈍化した。総合ベースではフィリピン中央銀行（BSP）目標範囲（+2.0～4.0%）を下回り、コアベースでも引き続き目標圏内に収まっており、物価情勢は低位で安定していると言えよう。BSP は、インフレ見通しについては安定しているとした。先行きの予想インフレ率（リスク調整後）については、2025 年の見通しは+1.7%と前回会合から変更はなかった。2026 年については+3.1%（前回+3.3%）、2027 年については+2.8%（前回+3.4%）とそれぞれ下方修正した。インフレ期待についても良好に抑制されていると述べた。一方で、電気料金調整やコメの輸入関税引き上げがインフレ圧力を高める可能性があることに言及した。ただ、インフレ見通しに対するリスクは限定的で、インフレ圧力は今後緩和していくとの見解を示した。

レモロナ総裁は、前回 8 月会合でフィリピンはインフレと経済成長の両面で好位置にあると述べていたが、今会合では国内成長の見通しが弱まったことを強調し、利下げの理由として挙げた。前回会合ではインフレリスクに重きが置かれていたが、今回は経済成長への支援へと明確に重きが変わったことが窺える。成長見通しの弱まりは、公共インフラ投資に関するガバナンスへの懸念が企業の信頼感に影響を与えていると具体的に声明文で述べている。これは洪水対策の「幽霊事業」を巡る汚職疑惑で公共事業の不正や政治家への資金還流が次々と発覚した事件が発端となっている。これまでは外部環境や国内の不確実性など抽象的な表現にとどまっていたが、これほど具体的に BSP が述べるのは異例と言える。現時点での大きな問題はガバナンスだと、はっきりと明言している。以前は 5.00%をちょうどいい金利とレモロナ総裁は述べていたが、今回の会見では 4.00～5.00%へと変更された。レモロナ総裁は先行きの金融政策に関しては緩和的な金融スタンスをとる余地があると判断しているも述べた。前回会合では 2025 年はあと 1 回の利下げの可能性を示唆していたがその発言を撤回し、更にもう 1 回の利下げ余地があるとした。緩和サイクルの終わりに近づいていることを示唆していた前回会合とは異なり、かなりハト派な姿勢に傾斜した印象だ。インフレ見通しが安定していること、公共インフラ投資に関する汚職疑惑を受けた成長見通しの引き下げを背景に BSP は緩和姿勢を強めており 2025 年はあと

1 回の▲25bp の利下げが妥当と判断する。2026 年は、利下げは最大でも 2 回、政策金利は引き下げても 4.00%までと予想する。

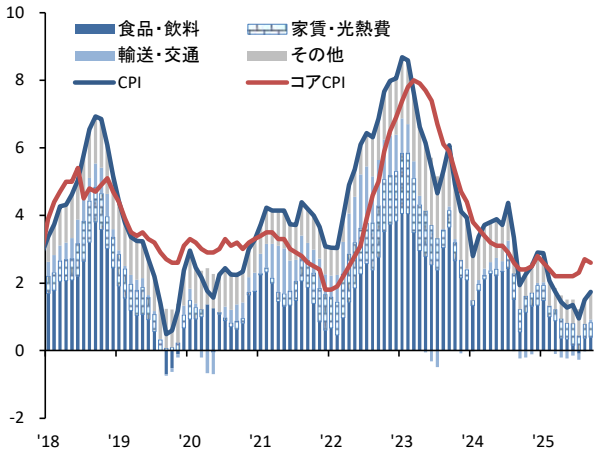
10 月に入ってからの PHP 相場は 58 台前半を中心に推移している（図表 3）。9 日の会合前は 57 台後半で推移していたが、利下げを受けて 58 台前半まで再び押し戻されている（10 月 9 日、日本時間 17 時 30 分時点）。BSP は急激な下落となれば PHP を防衛すると述べているため、下落は一定程度にとどまると予想する。なお、原油価格は足許落ち着きをみせているが、これが大きく上昇すれば PHP の重しとなり、BSP も通貨防衛のため利下げ実施が難しくなることには注意を払いたい。

図表 1：政策金利水準とインフレ目標



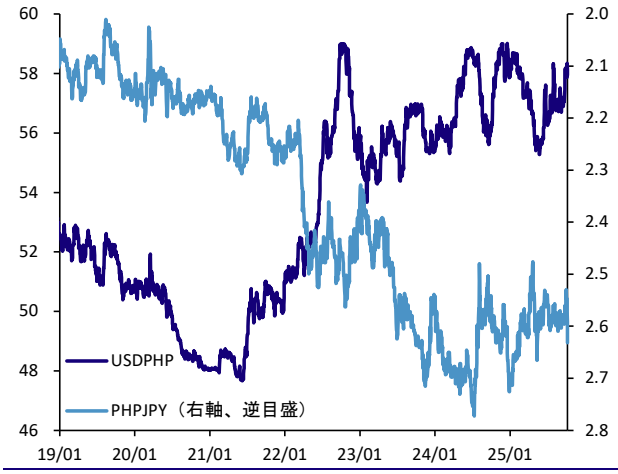
出所：フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2：消費者物価上昇率の推移（前年比%、%ポイント）



出所：CEIC、みずほ銀行

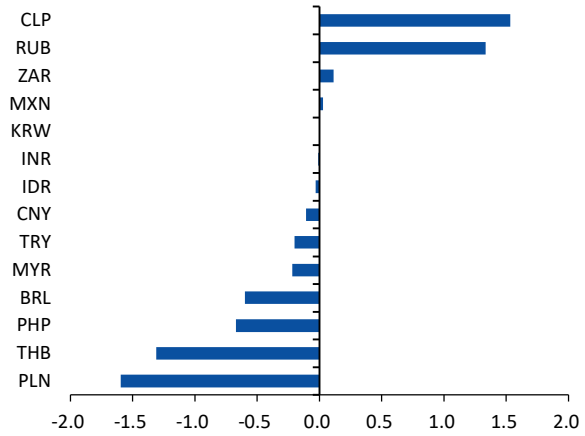
図表 3：PHP 相場動向



出所：Bloomberg、みずほ銀行

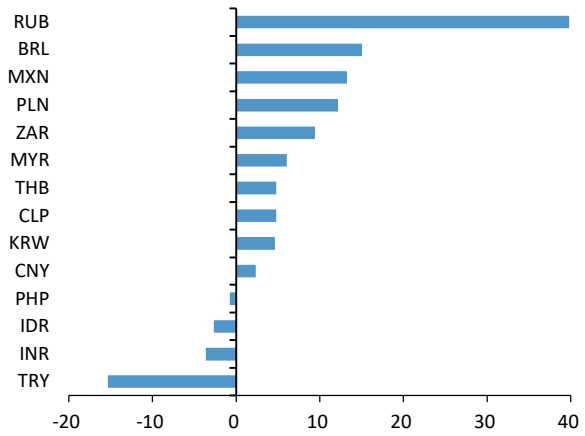
資産別騰落率

為替週間騰落率（対ドル、%）



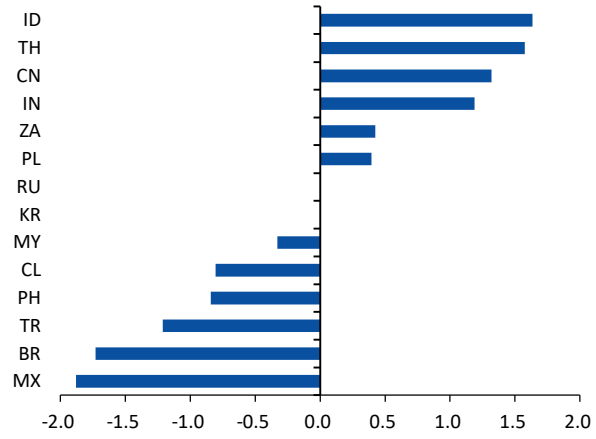
出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率（対ドル、%）



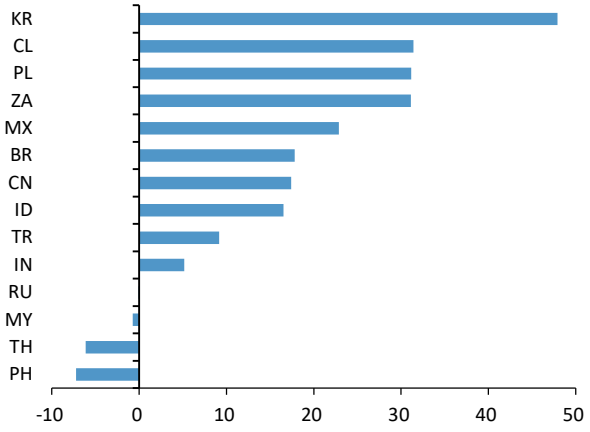
出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率（%）



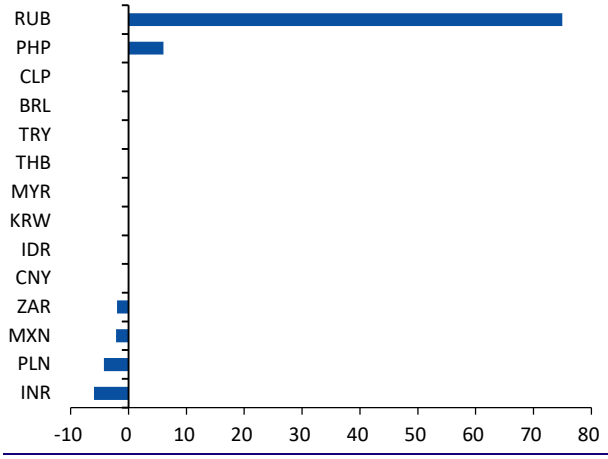
出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率（%）



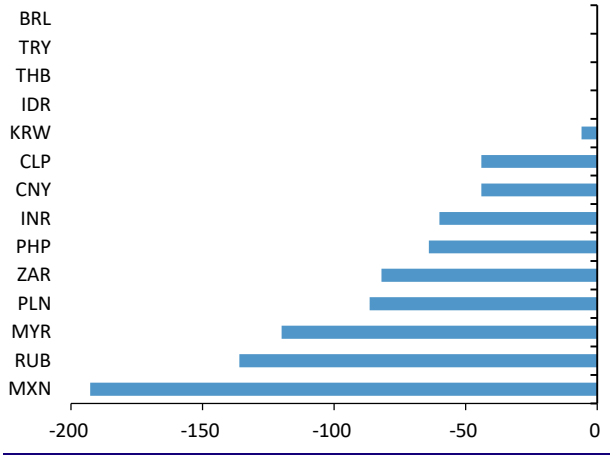
出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

5 年物スワップレート週間変化（bp）



注：データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。
出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

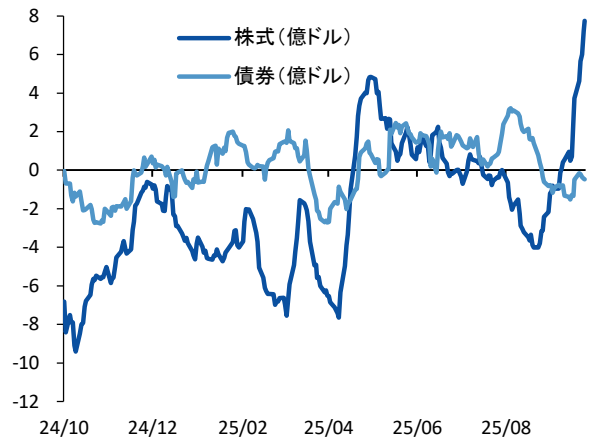
5 年物スワップレート年初来変化（bp）



注：データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。
出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

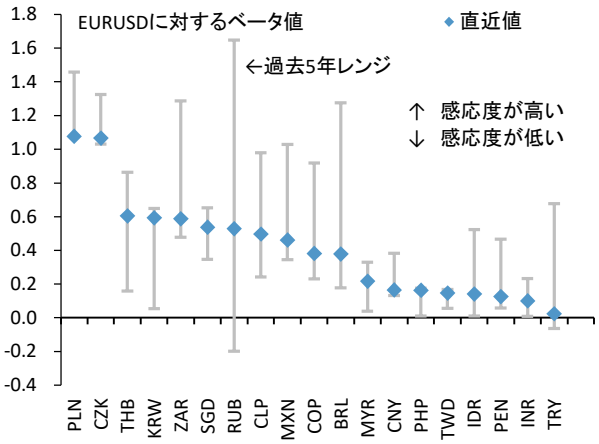
チャート集

主要新興国への証券投資（4 週間移動平均）



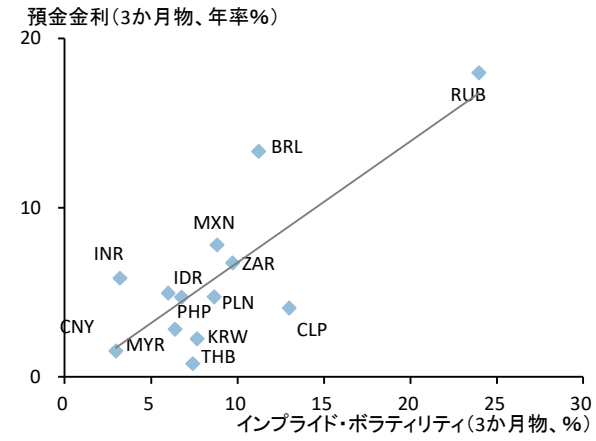
出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

EM 通貨（対ドル）の EURUSD に対する感応度（過去 12 か月）



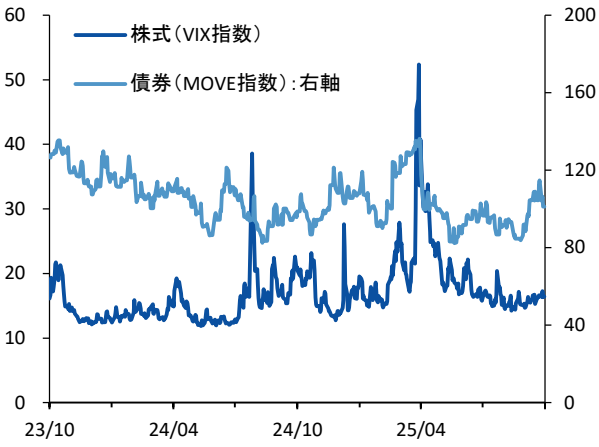
出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



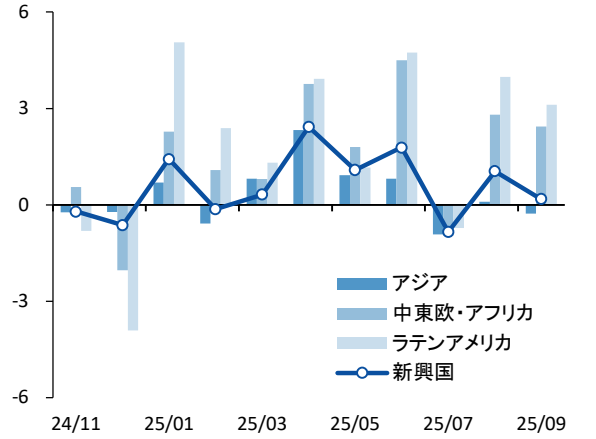
出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ（VIX 指数、MOVE 指数）



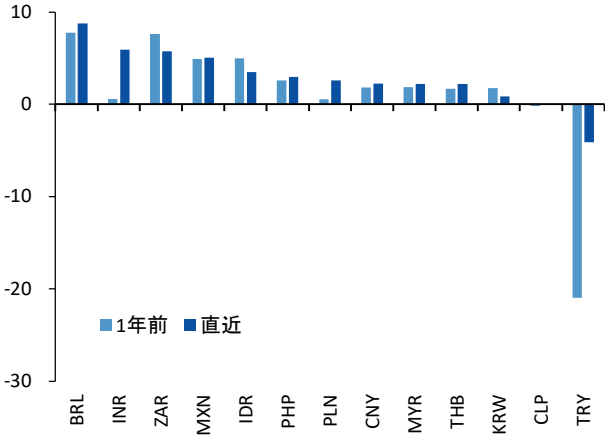
出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス（%）



出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利（10 年物国債金利 － 消費者物価上昇率、%）



出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
10月6日 (月)	タイ	CPI(前年比)	-0.6%	-0.7%	-0.8%	--
7日 (火)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	1.9%	1.7%	1.5%	--
8日 (水)	フィリピン	失業率	--	3.9%	5.3%	--
8日 (水)	タイ	タイ中央銀行指標金利	1.25%	1.50%	1.50%	--
8日 (水)	台湾	CPI(前年比)	1.6%	1.3%	1.6%	--
9日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	5.00%	4.75%	5.00%	--
9日 (木)	台湾	貿易収支	$16.32b	$12.40b	$16.83b	--
10日 (金)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	3.4%	--	4.2%	--
13日 (月)	インド	CPI(前年比)	--	--	2.1%	--
13日 (月)	中国	輸出(前年比)	6.3%	--	4.4%	--
13日 (月)	中国	輸入(前年比)	1.4%	--	1.3%	--
13日 (月)	中国	貿易収支	$99.65b	--	$102.33b	--
14日 (火)	シンガポール	GDP(前年比)	2.0%	--	4.4%	--
14日 (火)	インド	卸売物価(前年比)	--	--	0.5%	--
15日 (水)	中国	PPI(前年比)	-2.3%	--	-2.9%	--
15日 (水)	中国	CPI(前年比)	-0.2%	--	-0.4%	--
15日 (水)	インド	輸出(前年比)	--	--	6.7%	--
15日 (水)	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	--	--	3.0%	--
15日 (水)	インド	輸入(前年比)	--	--	-10.1%	--
17日 (金)	韓国	失業率(季調済)	--	--	2.6%	--
17日 (金)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	--	--	-11.3%	--
17日 (金)	マレーシア	GDP(前年比)	--	--	4.4%	--
17日 (金)	マレーシア	輸出(前年比)	--	--	1.9%	--
中東欧・アフリカ						
10月9日 (木)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	--	7.1%	5.0%	5.2%
9日 (木)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	-0.4%	-1.5%	-0.7%	-1.3%
10日 (金)	ロシア	CPI(前年比)	8.0%	--	8.1%	--
13日 (月)	トルコ	経常収支	--	--	1.77b	--
13日 (月)	ロシア	経常収支	--	--	4013m	--
15日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	--	--	5.6%	--
ラテンアメリカ						
10月6日 (月)	ブラジル	貿易収支(月次)	$2700m	$2990m	$6133m	$5861m
9日 (木)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	5.2%	5.2%	5.1%	--
9日 (木)	メキシコ	CPI(前年比)	3.8%	3.8%	3.6%	--
10日 (金)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	-2.1%	--	-2.7%	--
11-16日	メキシコ	ANTAD既存店売上高(前年比)	--	--	7.6%	--
15日 (水)	ブラジル	小売売上高(前年比)	--	--	1.0%	--
16日 (木)	ブラジル	経済活動(前年比)	--	--	1.2%	--

注:2025 年 10 月 10 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2025年 1～9月（実績）	SPOT	2025年 12月	2026年 3月	6月	9月	12月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	（CNY）	7.1024 ～ 7.3512	7.1301	7.18	7.14	7.11	7.08	7.05
香港ドル	（HKD）	7.7500 ～ 7.8500	7.7823	7.78	7.78	7.77	7.76	7.76
インドルピー	（INR）	83.764 ～ 88.805	88.790	85.8	86.3	85.5	85.8	85.3
インドネシアルピア	（IDR）	16079 ～ 17224	16568	17000	16560	16450	16500	16550
韓国ウォン	（KRW）	1347.23 ～ 1487.45	1423.71	1390	1370	1350	1340	1330
マレーシアリンギ	（MYR）	4.1805 ～ 4.5185	4.2247	4.26	4.14	4.07	4.06	4.06
フィリピンペソ	（PHP）	55.158 ～ 58.715	58.265	56.1	55.2	54.4	54.4	54.4
シンガポールドル	（SGD）	1.2698 ～ 1.3751	1.2996	1.31	1.30	1.29	1.28	1.28
台湾ドル	（TWD）	28.790 ～ 33.280	30.522	30.0	29.7	29.3	29.0	29.0
タイバーツ	（THB）	31.58 ～ 34.98	32.79	33.0	32.8	32.5	32.3	32.0
ベトナムドン	（VND）	25038 ～ 26437	26351	26450	26350	26300	26250	26300
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	（RUB）	74.0500 ～ 114.7788	81.1908	84.0	86.0	88.0	90.0	92.0
南アフリカランド	（ZAR）	17.2171 ～ 19.9328	17.1964	17.4	17.6	17.8	18.0	18.2
トルコリラ	（TRY）	35.2419 ～ 41.9184	41.8247	43.0	44.0	45.0	46.0	47.0
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	（BRL）	5.2698 ～ 6.2270	5.3695	5.45	5.55	5.60	5.65	5.70
メキシコペソ	（MXN）	18.2008 ～ 21.2932	18.3879	18.6	19.0	19.2	19.0	18.8
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	（CNY）	19.145 ～ 21.666	21.486	20.47	20.31	20.68	21.05	21.28
香港ドル	（HKD）	18.031 ～ 20.403	19.677	18.89	18.64	18.92	19.20	19.33
インドルピー	（INR）	1.644 ～ 1.848	1.725	1.71	1.68	1.72	1.74	1.76
インドネシアルピア	（100IDR）	0.830 ～ 0.981	0.924	0.865	0.876	0.894	0.903	0.906
韓国ウォン	（100KRW）	9.749 ～ 10.916	10.762	10.58	10.58	10.89	11.12	11.28
マレーシアリンギ	（MYR）	31.951 ～ 35.699	36.248	34.51	35.02	36.12	36.70	36.95
フィリピンペソ	（PHP）	2.470 ～ 2.726	2.627	2.62	2.63	2.70	2.74	2.76
シンガポールドル	（SGD）	107.08 ～ 116.28	117.83	112.56	111.71	114.31	116.22	117.55
台湾ドル	（TWD）	4.310 ～ 5.090	5.017	4.90	4.88	5.02	5.14	5.17
タイバーツ	（THB）	4.150 ～ 4.668	4.669	4.45	4.42	4.52	4.61	4.69
ベトナムドン	（100VND）	0.5401 ～ 0.6253	0.5807	0.56	0.55	0.56	0.57	0.57
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	（RUB）	1.370 ～ 1.985	1.886	1.75	1.69	1.67	1.66	1.63
南アフリカランド	（ZAR）	7.263 ～ 8.627	8.905	8.45	8.24	8.26	8.28	8.24
トルコリラ	（TRY）	3.501 ～ 4.481	3.657	3.42	3.30	3.27	3.24	3.19
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	（BRL）	23.669 ～ 28.111	28.495	26.97	26.13	26.25	26.37	26.32
メキシコペソ	（MXN）	6.845 ～ 8.152	8.328	7.90	7.63	7.66	7.84	7.98

注：1. 実績の欄は 2025 年 9 月 30 日まで。SPOT は 10 月 10 日の 9 時 10 分頃。
2. 実績値はブルームバーグの値。
3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所：ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。